

氏名 高 橋 清

学 位 の 種 類 医 学 博 士

学位授与番号 乙 第 896 号

学位授与の日付 昭和 52 年 9 月 30 日

学位授与の要件 博士の学位論文提出者
(学位規則第 5 条第 2 項該当)

学位論文題目 アレルギー反応局所の好塩基球の動態に関する研究
第 1 編 非特異的反應皮膚局所への好塩基球の出現について
第 2 編 即時型アレルギー反応皮膚局所への好塩基球の出現について
第 3 編 中間型および遅延型アレルギー反応皮膚局所への好塩基球の出現について

論文審査委員 教授 大藤 眞 教授 長島秀夫 教授 野原 望

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

各種アレルギー反応における好塩基球および好酸球の関与を検討する目的で、気管支喘息患者に各種アレルギーの皮内反応を行い、その局所に cantharidin 発泡膏を貼布し、その滲出液への両細胞の出現を検討し以下の成績を得た。1) 非特異的炎症反応皮膚局所への両細胞の出現は一般に低率であったが、健康人に較べ喘息患者に高率であった。2) 即時型反応皮膚局所への両細胞の出現は未処置皮膚局所に較べ高率であり、また花梨材・紫檀材喘息・そばアレルギー症患者の特異抗原による反応局所でも同様に高率に出現する傾向を認め、アレルギー検索の一助となり得ると考えられた。3) 中間型および遅延型反応皮膚局所への両細胞の出現も高率であり、さらにモルモットの Cutaneous basophil hypersensitivity 反応局所に好塩基球が集積し、macrophage と接触する所見や顆粒の開口型分泌が観察された。

以上好塩基球・好酸球は各種アレルギー反応全般にわたって関与していることが推察された。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究はアレルギー反応局所における好塩基球の動態に関して臨床的に研究したものであるが、従来十分確立されていなかったこの方面の研究について重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。